

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(平成 26 年 8 月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【底質（一般項目）、陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪市 港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター

# 目 次

## I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 ..... I - 1
- 2. 工事の実施状況 ..... I - 4
- 3. 調査結果の概要 ..... I - 5

## II 事後調査結果

- 1. 底質 ..... II - 1
- 2. 陸域生態系（鳥類） ..... II - 2

## I 事後調査の概要

## 1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく平成 26 年 8 月（底質、陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1 に、調査地点の位置は図-1 に示すとおりである。

表-1 事後調査の概要（平成 26 年 8 月）

### 埋立地周辺における調査

#### (1) 底質（一般項目）表-1(1)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全磷(T-P) 酸化還元電位	4点(表層土) 【2, 3, 4, 5】	8月29日	2回／年 (8月、2月)

#### (2) 陸域生態系（鳥類）表-1(2)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a、b、c、d】	8月11～12日	4回／年(2年おきに実施) (5月、8月、11月、2月)

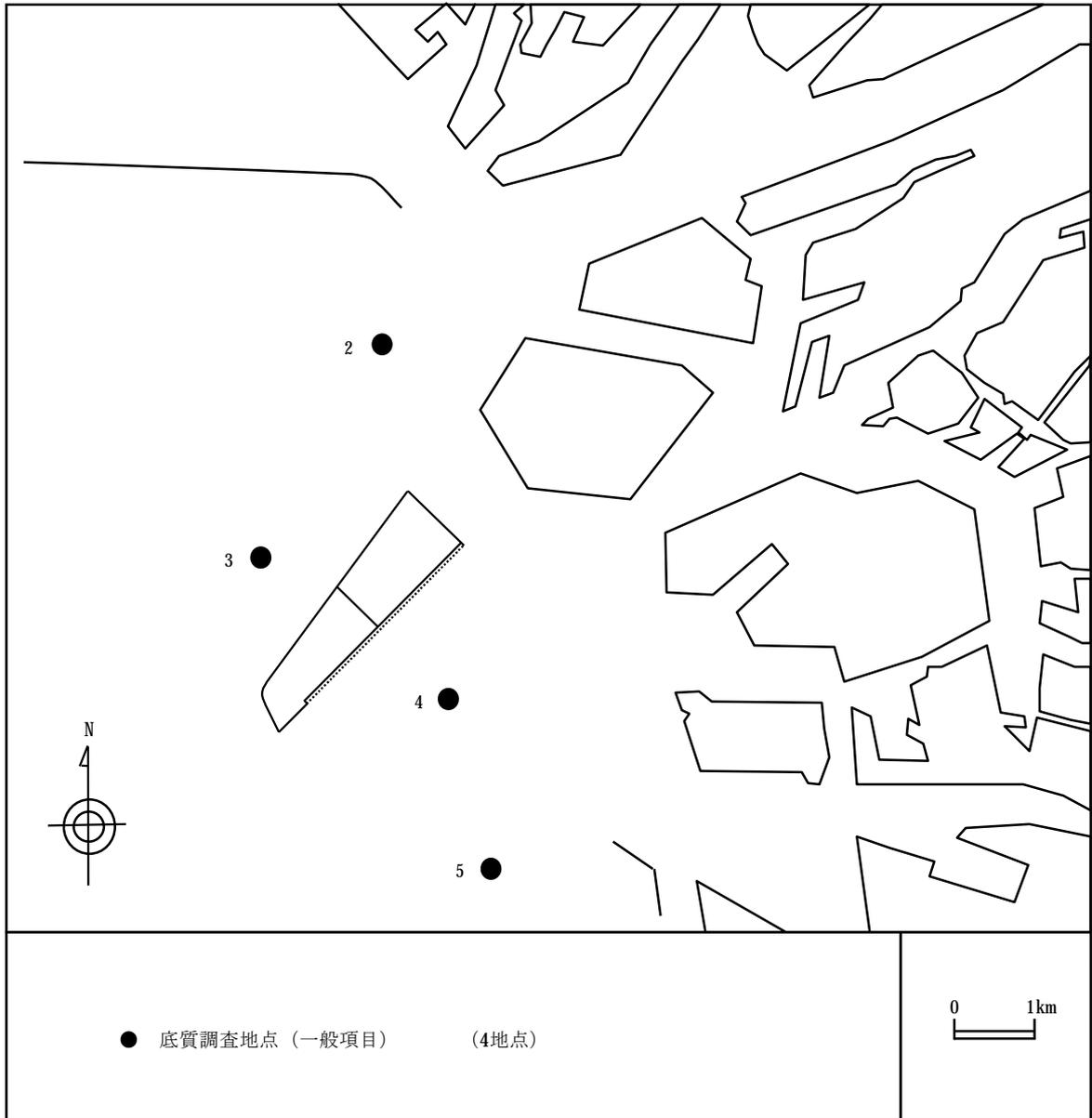


図-1(1) 底質(一般項目)の調査地点 (平成 26 年 8 月)

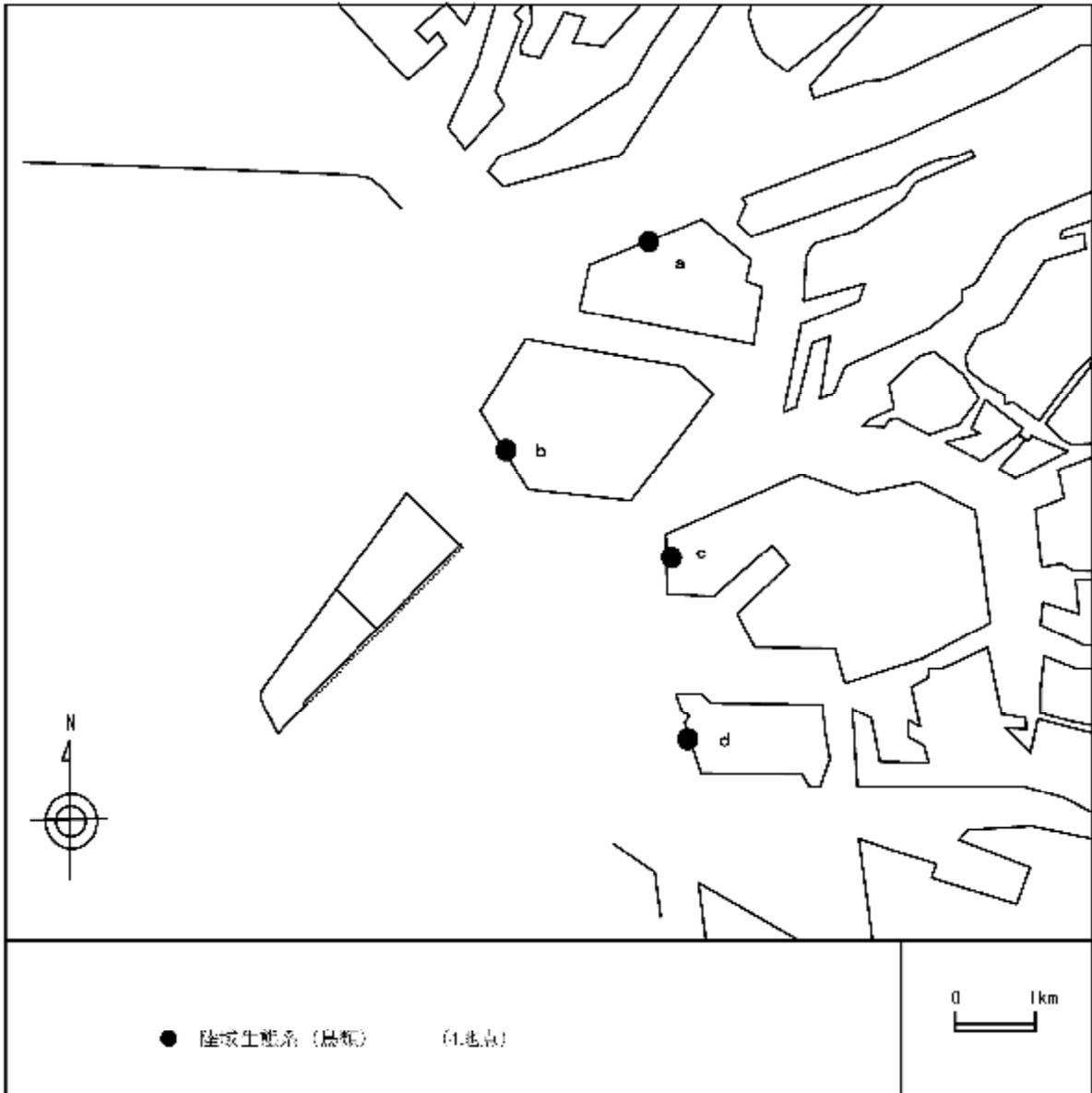
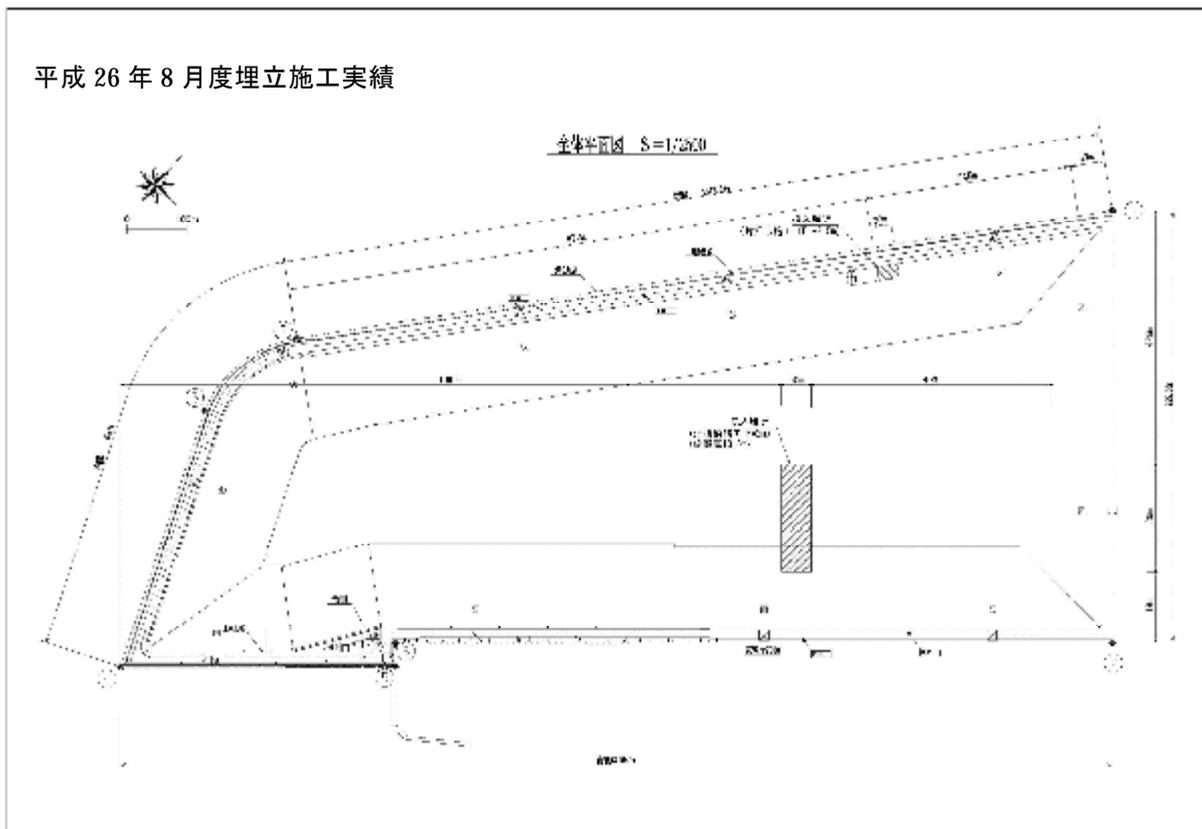


図-1(2) 陸域生態系(鳥類)の調査地点 (平成 26 年 8 月)

## 2. 工事の実施状況

平成 26 年 8 月の工事の実施状況は、図-2 に示すとおりである。

### 大阪沖処分場平面図



埋立量(m <sup>3</sup> )	進捗率(%)
2,858,383	20.5

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m<sup>3</sup>

図-2 工事の実施状況 (平成 26 年 8 月)

### 3. 調査結果の概要

#### 埋立地周辺における調査

##### (1) 底質 [底質様式第1号]

強熱減量は **9.3～10.1%**、化学的酸素要求量(COD)は **28～29mg/g**、硫化物は **0.5～0.9mg/g**、全窒素(T-N)は **2.4～2.9mg/g**、全燐(T-P)は **0.58～0.68mg/g** の範囲にあった。

##### (2) 陸域生態系（鳥類） [陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）]

鳥類の出現種類数は、**4** 地点合計で **9** 目 **25** 科 **42** 種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点 **b** が最も多く **467** 羽であり、次いで調査地点 **d** の **277** 羽、調査地点 **c** の **193** 羽、調査地点 **a** の **128** 羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点 **b** が最も多く **27** 種であり、次いで調査地点 **c** の **24** 種、調査地点 **a** の **18** 種、調査地点 **d** の **12** 種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点 **b** における主要な出現種は、カワウ（ペリカン目ウ科）、シロチドリ（チドリ目チドリ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、ドバト（ハト目ハト科）、ツバメ（スズメ目ツバメ科）であった。

事業実施前（平成 **9** 年 **8** 月：調査地点の位置は、平成 **26** 年度調査の調査地点に同じ）に実施した鳥類調査の結果は、**4** 地点合計で **8** 目 **19** 科 **35** 種<sup>注)</sup> であり、同程度の結果であった。

注) 平成 **9** 年 **8** 月時の調査結果は、当時の分類リストに基づく **8** 目 **18** 科 **35** 種であったが、最新の分類リスト（「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成 **26** 年度版生物リスト」）に基づき再集計した。

## II 事後調查結果

底質調査結果（一般項目）[平成 26 年 8 月分]

調査日：平成26年8月29日

項目		調査点				最小値	～	最大値	平均値
		2	3	4	5				
採泥時刻		11:58	11:42	11:02	10:40	—		—	
粒度 組成 [%]	粗礫 (19mm以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	～	0.0	0.0
	中礫 (4.75～19mm)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	～	0.0	0.0
	細礫 (2.00～4.75mm)	0.3	0.3	1.2	0.9	0.3	～	1.2	0.7
	粗砂 (0.850～2.00mm)	0.3	0.3	0.7	0.3	0.3	～	0.7	0.4
	中砂 (0.250～0.850mm)	0.7	0.9	2.1	0.7	0.7	～	2.1	1.1
	細砂 (0.075～0.250mm)	2.3	2.7	6.9	3.3	2.3	～	6.9	3.8
	シルト (0.005～0.075mm)	56.0	50.6	47.4	48.8	47.4	～	56.0	50.7
	粘土 (0.005mm以下)	40.4	45.2	41.7	46.0	40.4	～	46.0	43.3
含水率 [%]		69.2	71.4	70.2	69.7	69.2	～	71.4	70.1
強熱減量 [%]		9.3	10.1	9.6	9.5	9.3	～	10.1	9.6
化学的酸素要求量 (COD) [mg/g乾泥]		29	29	28	29	28	～	29	29
硫化物 [mg/g乾泥]		0.6	0.5	0.9	0.5	0.5	～	0.9	0.6
全窒素 (T-N) [mg/g乾泥]		2.4	2.9	2.7	2.8	2.4	～	2.9	2.7
全磷 (T-P) [mg/g乾泥]		0.61	0.68	0.58	0.64	0.58	～	0.68	0.63
酸化還元電位 [mV]		-450	-453	-426	-430	-453	～	-426	-440

特記事項

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）[平成26年8月分]

調査日：平成26年8月11～12日

目	科	種	区分	地点別出現個体数				
				a	b	c	d	計
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥		6	1		7
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	51	185	5	33	274
コウノトリ	サギ	ダイサギ	留鳥	15	6	27		48
		コサギ	留鳥	1		1		2
		アオサギ	留鳥	8	5	7	5	25
カモ	カモ	マガモ	冬鳥			4		4
		カルガモ	留鳥		45	28		73
		ホシハジロ	冬鳥		2			2
		スズガモ	冬鳥		3			3
タカ	タカ	ミサゴ	留鳥	1	3			4
	ハヤブサ	チョウゲンボウ	冬鳥		1		1	2
ツル	クイナ	バン	留鳥	1				1
チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		1	2		3
		シロチドリ	留鳥		56		1	57
		メダイチドリ	旅鳥		1			1
	シギ	トウネン	旅鳥		24	5		29
		ハマシギ	冬鳥		2			2
		アカアシシギ	旅鳥			1		1
		アオアシシギ	旅鳥			14		14
		クサシギ	冬鳥	1				1
		キアシシギ	旅鳥	2	2	26	1	31
		イソシギ	留鳥	1	2		2	5
		ソリハシシギ	旅鳥			2		2
	ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ	旅鳥		6			6
	ツバメチドリ	ツバメチドリ	旅鳥（一部夏鳥）			1		1
	カモメ	ウミネコ	留鳥	15	6	1	219	241
ハト	ハト	ドバト	（移入種）		34			34
		キジバト	留鳥			2		2
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥		15			15
	ツバメ	ツバメ	夏鳥	4	31	1	7	43
	セキレイ	キセキレイ	留鳥	2				2
		ハクセキレイ	留鳥		4		3	7
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	2		6		8
	ツグミ	イソヒヨドリ	留鳥	1			1	2
	ウグイス	セッカ	留鳥	1	17			18
	シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥			2		2
	メジロ	メジロ	留鳥			1		1
	アトリ	カワラヒワ	留鳥（一部冬鳥）		1			1
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥	4	3	10		17
	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	10		42		52
	カラス	ハシボソガラス	留鳥		3	2	2	7
		ハシブトガラス	留鳥	8	3	2	2	15
合計（9目25科42種）			目数	6	8	7	5	9
			科数	14	18	16	10	25
			種類数	18	27	24	12	42
			個体数	128	467	193	277	1,065

注) 1. 分類及び種の配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成24年度版生物リスト」

(国土交通省、2012)に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」(財)日本野鳥の会大阪支部、2002)に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[平成26年8月分]

調査日：平成26年8月11～12日

区分		地点別出現個体数				
		a	b	c	d	計
出現 状況	目	6	8	7	5	9
	科	14	18	16	10	25
	種	18	27	24	12	42
出現個体数		128	467	193	277	1,065
主な出現種  (個体数、 組成比率)	カワウ (51羽、39.8%)	カワウ (185羽、39.6%)	ムクドリ (42羽、21.8%)	ウミネコ (219羽、79.1%)	カワウ (274羽、25.7%)	
	ダイサギ (15羽、11.7%)	シロチドリ (56羽、12%)	カルガモ (28羽、14.5%)	カワウ (33羽、11.9%)	ウミネコ (241羽、22.6%)	
	ウミネコ (15羽、11.7%)	カルガモ (45羽、9.6%)	ダイサギ (27羽、14%)	ツバメ (7羽、2.5%)	カルガモ (73羽、6.9%)	
	ムクドリ (10羽、7.8%)	ドバト (34羽、7.3%)	キアシシギ (26羽、13.5%)	アオサギ (5羽、1.8%)	シロチドリ (57羽、5.4%)	
	アオサギ (8羽、6.3%)	ツバメ (31羽、6.6%)	アオアシシギ (14羽、7.3%)	ハクセキレイ (3羽、1.1%)	ムクドリ (52羽、4.9%)	
	ハシブトガラス (8羽、6.3%)					

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）[平成26年8月分]

調査日：平成26年8月11～12日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ	1	39.8	1	ウ	1	39.6
2	サギ	3	18.8	2	チドリ	3	12.4
3	カモメ	1	11.7	3	カモ	3	10.7
4	ムクドリ	1	7.8	4	ハト	1	7.3
5	カラス	1	6.3	5	ツバメ	1	6.6
6	シギ	3	3.1	6	シギ	4	6.4
6	ツバメ	1	3.1	7	ウグイス	1	3.6
6	ハタオリドリ	1	3.1	8	ヒバリ	1	3.2
9	セキレイ	1	1.6	9	サギ	2	2.4
9	ヒヨドリ	1	1.6	10	カイツブリ	1	1.3
11	タカ	1	0.8	10	ヒレアシシギ	1	1.3
11	クイナ	1	0.8	10	カモメ	1	1.3
11	ツグミ	1	0.8	10	カラス	2	1.3
11	ウグイス	1	0.8	14	セキレイ	1	0.9
				15	タカ	1	0.6
				15	ハタオリドリ	1	0.6
				17	ハヤブサ	1	0.2
				17	アトリ	1	0.2

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	シギ	5	24.9	1	カモメ	1	79.1
2	ムクドリ	1	21.8	2	ウ	1	11.9
3	サギ	3	18.1	3	ツバメ	1	2.5
4	カモ	2	16.6	4	サギ	1	1.8
5	ハタオリドリ	1	5.2	5	カラス	2	1.4
6	ヒヨドリ	1	3.1	6	シギ	2	1.1
7	ウ	1	2.6	6	セキレイ	1	1.1
8	カラス	2	2.1	8	ハヤブサ	1	0.4
9	チドリ	1	1.0	8	チドリ	1	0.4
9	ハト	1	1.0	8	ツグミ	1	0.4
9	シジュウカラ	1	1.0				
12	カイツブリ	1	0.5				
12	ツバメチドリ	1	0.5				
12	カモメ	1	0.5				
12	ツバメ	1	0.5				
12	メジロ	1	0.5				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。